

刊行にあたって

平成17年10月の富山県内3国立大学統合を機に、本学部は教育学部から人間発達科学部へと改組を行いました。改組によって学部のミッションは、学校教員の養成から学校教育・生涯学習・社会教育・企業内教育や保育・社会福祉に渡る広い意味での教育人材の養成となりました。このミッションは、現在に至っては、中教審の答申に謳われているチーム学校を支える人材養成とマッチしており、先駆的な改革を行っていたのだと実感させられます。このように、広い意味での教育人材の養成を掲げる本学部ですが、文部科学省の区分によると教員養成系ではなく社会科学系に分類されています。富山県は教員養成学部のない県として、他の都道府県とは異なる色で地図上に表記され、公表されています。そのような状況下で、平成28年4月には教職大学院教職実践開発研究科が設置されました。この研究科の設置は、富山県教育委員会と協働して、人間発達科学部が中心となって進められましたが、設置形態は独立研究科となりました。しかし、設置の主旨は人間発達科学部と共有するところが多く、相互に協力をして教育・研究をしていくことが必要です。

さて、人間発達科学部になり、学部のミッションが広い意味での教育人材養成となることで、それまでよりも教育対象の範囲が広がったことから、教育の基盤となる研究についてもミッションに適合した研究が必要となりました。そこで、平成18年10月に現在の人間発達科学部紀要の第1巻が刊行されました。そして、本年度から設置された教職大学院とは教育・研究で協力していくことが必要で、この人間発達科学部紀要でも協力体制をとっていくことになりました。本増刊号は上記の様な経緯のもと、教育人材養成を目指す研究が益々発展し、広く国内外に発信できることを願って、通常の年2回の発行に追加する形で発行することになりました。

平成29年3月 富山大学

人間発達科学部

学 部 長 鳥海 清司